

28amA-001

Kaempferia parviflora 根茎の前立腺肥大抑制作用

○出口 貴浩¹, 村田 和也¹, 吉岡 百合², 松村 晋一², 藤田 貴則³, 林 浩孝³, 松田 秀秋¹(¹近畿大薬, ²稲畑香料, ³日本タブレット)

【目的】ショウガ科植物 *Kaempferia parviflora* の根茎 (KP) は、タイの民族薬物として用いられ、特に強壯作用が高いことで知られている。我々は前立腺肥大症予防や育毛作用を有する素材探索において、KP が 5 α -レダクターゼ阻害作用を有することを報告した¹⁾。本研究では、KP の去勢ラットにおける男性ホルモン誘発前立腺肥大に対する作用を検討した。

【方法】試料: タイ産 KP の 70%メタノール抽出エキス (KP-ext) を試験に供した。陽性対照薬には finasteride を用いた。薬理活性評価: 6 週齢の去勢ラットに 14 日間連続でテストステロンプロピオン酸塩 (TP) を腹腔内投与し、さらに KP-ext (200 mg/kg) および finasteride (2 mg/kg) を経口投与した。投与最終日に前立腺および精嚢を摘出し、各臓器の湿重量を測定した。前立腺肥大抑制作用はラット体重 1 kg あたりの前立腺および精嚢重量で評価した。

【結果・考察】TP 無処置正常ラット群の前立腺および精嚢重量は、それぞれ 397, 478 mg で、TP 無処置去勢ラット群の前立腺および精嚢重量は、それぞれ 145, 79 mg で、去勢することにより前立腺および精嚢重量は顕著に低下した。このラットに TP 処置すると、前立腺重量が 1,897 mg, 精嚢重量が 1,099 mg となり、男性ホルモン剤の投与により顕著に増加した。この増加に対して KP-ext および抗男性ホルモン剤である finasteride の投与により、前立腺および精嚢重量の増加が有意に抑制された。これらの結果から、KP-ext の経口投与により、男性ホルモンで誘発された前立腺肥大を抑制できることを明らかにし、その有効機序のひとつはすでに報告しているメトキシフラボン類による 5 α -レダクターゼ阻害作用と示唆される。

1)日本薬学会第 132 年会 (札幌) 要旨集 31E17-pm02